

# 公益財団法人渋沢栄一記念財団 情報資源センターの公開データ

情報資源センター長 茂原 暢

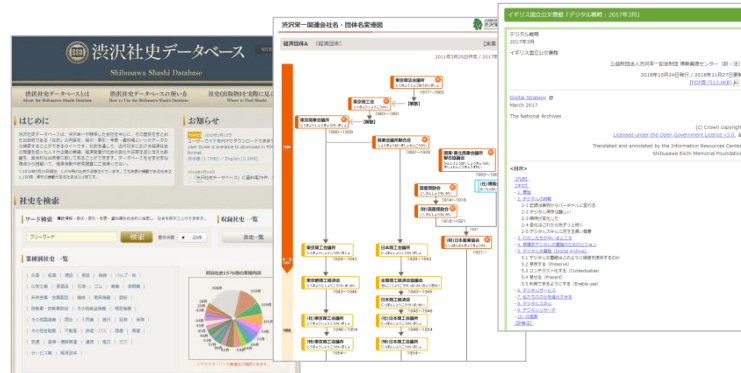
2018年12月2日  
東京大学地震研究所

じんもんこん・総合資料学共催セッション「歴史研究と人文研究のためのデータを学ぶ」

# 『渋沢栄一伝記資料』 デジタル化プロジェクト



# 社史プロジェクト



「実業史錦絵絵引」

「渋沢敬三アーカイブ」

# 『渋沢栄一伝記資料』 デジタル化プロジェクト

# 社史プロジェクト

## デジタル版『渋沢栄一伝記資料』

伝記資料を検索
○ AND ○ OR
検索
詳細検索へ >

[TOP](#) > [各巻リンク](#) > [第1巻 目次【網文】](#) > [第1巻\(DK010001k\) 本文](#)

[凡例](#) [更新履歴](#) [このサイトについて](#)

[第1巻 \(DK010001k\) 資料リスト](#)

[第1巻 \(DK010001k\) 本文](#)

[次へ \(DK010002k\) >](#)

公開日: 2016.11.11 / 最終更新日: 2017.12.12

1編 在郷及び仕官時代

1部 在郷時代

1章 幼少年時代

**■ 網文**

第1巻 p.1-61 (DK010001k) [ページ画像](#)

天保十一年庚子二月十三日（1840年）

武蔵国樺沢郡安部領血洗島村ニ生ル。幼名市三郎又栄治郎。幼少時代ノ名兼美雄。後通称ヲ栄一郎名兼ヲ栄一ト改メ、青淵ト号ス。仕官時代一時篤太夫、尋テ篤太郎ト称セシコトアリ。父ハ通称市郎右衛門、名兼美雅、晩番ト号ス。母ハエイ。家ハ世世農ヲ以テ本業トシ、傍ヲ養蚕ト製藍トヲ兼ネ営ム。

**■ 資料**

渋沢栄一伝稿本 第一章・第一頁【大正八—二年】 (DK010001k-0001)

第1巻 p.1 [ページ画像](#)

渋沢栄一伝稿本 第一章・第一頁【大正八—二年】

青淵先生、氏は渋沢、名は栄一、青淵は其号なり、天保十一年二月十三日武蔵国樺沢郡血洗島に生る。血洗島は関東平野を流るゝ利根川流域の一小村にして、いま大里郡八基村《オホサト》《ヤツモト》に属す。○下略

○『渋沢栄一伝稿本』ハ大正八年ヨリ同十二年ニカケテ竜門社ニ於テ編纂セルモノニシテ、大正十二年九月ノ震災ニ資料ノ大部分ヲ焼失セルタメニ中止トナル。上梓セラレタルハ第六章マデナリ。

渋沢栄一伝稿本 第一章・第一四—一五頁【大正八—二年】 (DK010001k-0002)

[各巻リンク](#) | [第1巻 目次【網文】](#) | [第1巻 \(DK010001k\) 資料リスト](#) | [▲ ページTOP](#)



# 渋沢栄一

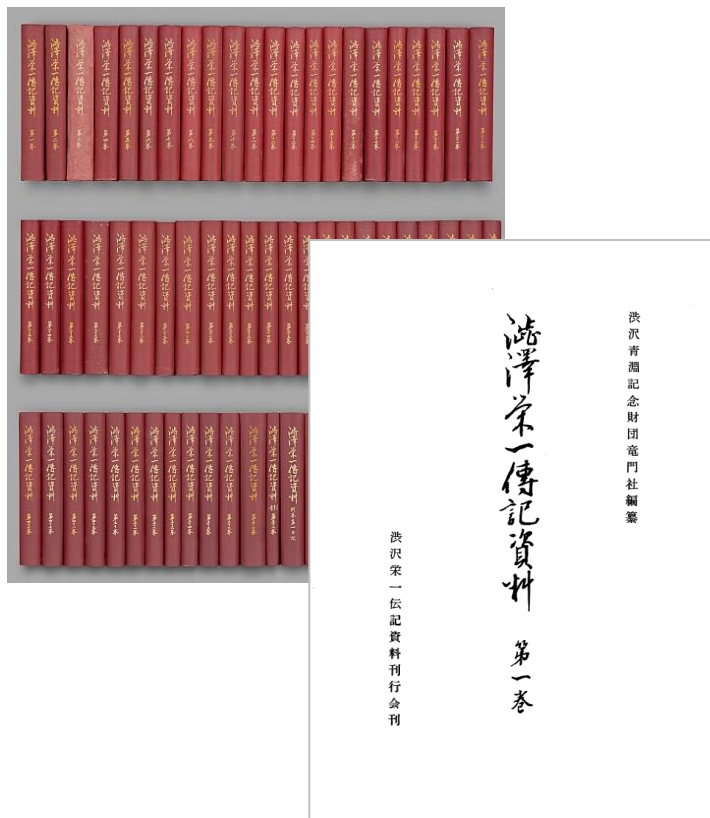
しぶさわ えいち

天保11（1840）年～昭和6（1931）年

- 官僚、実業家、社会事業家
- 約500の企業の育成、約600の社会公共事業や民間外交にも尽力
- 著述：『論語と算盤』『青淵百話』  
「実験論語処世談」など

# 1. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』

<https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryo/digital/main/>



『渋沢栄一伝記資料』（1955～1971年刊）

- 編纂：渋沢青淵記念財団竜門社（渋沢財団の前身）
  - 全68巻（本編：57巻＋索引巻、別巻：10巻）
  - 総計 約48,000ページ
- 「本編」の特徴：
- 年代別／事業別の階層構造（最大7階層）
  - 日付順に並んだ**綱文**（約7,500）の後に**関連資料の抜萃**（約38,000）を集積

# 1. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』

<https://eiichi.shibusawa.or.jp/denkishiryo/digital/main/>

『渋沢栄一伝記資料』本編より

1～57巻をテキスト、画像で公開

資料

網文

見出し

資料

渋沢栄一伝稿本 第一章・第一頁【大正八―二年】  
青洲先生、氏は渋沢、名は栄一、青洲は其号なり、天保十一年二月十三日武蔵国樺沢郡血洗島に生る。血洗島は関東平野を流る、利根川流域の一小村にして、いま大里郡八基村に属す。○下略

第一章 幼少年時代（天保十一年・1830）

網文

天保十一年 庚子 二月十三日  
武蔵国樺沢郡安部領血洗島村ニ生ル。幼名市三郎又栄治郎、幼少時代ノ名乗美雄、後通称ヲ栄一郎名乗ヲ栄一ト改メ、青洲ト号ス。仕官時代一時篤太夫、尋テ篤太郎ト称セシコトアリ。父ハ通称市郎右衛門、名乗美雅、晩香ト号ス。母ハエイ。家ハ世世農ヲ以テ本業トシ、傍ラ養蚕ト製鹽トヲ兼ネ営ム。

見出し

第一部 在郷時代  
第一章 幼少年時代



デジタル版『渋沢栄一伝記資料』

伝記資料を検索  AND OR 検索 詳細検索へ >

TOP > 各巻リンク > 第1巻 目次【編文】 > 第1巻(DK010001k) 本文

凡例 更新履歴 このサイトについて

第1巻 (DK010001k) 資料リスト	第1巻 (DK010001k) 本文	次へ (DK010002k) >
-----------------------	--------------------	------------------

公開日: 2016.11.11 / 最終更新日: 2017.12.12

1編 在郷及び仕官時代  
1部 在郷時代  
1章 幼少年時代

見出し

■網文

第1巻 p.1-61 (DK010001k) [ページ画像](#)

天保十一年庚子二月十三日（1840年）

武蔵国樺沢郡安部領血洗島村ニ生ル。幼名市三郎又栄治郎、幼少時代ノ名乗美雄、後通称ヲ栄一郎名乗ヲ栄一ト改メ、青洲ト号ス。仕官時代一時篤太夫、尋テ篤太郎ト称セシコトアリ。父ハ通称市郎右衛門、名乗美雅、晩香ト号ス。母ハエイ。家ハ世世農ヲ以テ本業トシ、傍ラ養蚕ト製鹽トヲ兼ネ営ム。

■資料

渋沢栄一伝稿本 第一章・第一頁【大正八―二年】 (DK010001k-0001)  
第1巻 p.1 [ページ画像](#)

資料

渋沢栄一伝稿本 第一章・第一頁【大正八―二年】  
青洲先生、氏は渋沢、名は栄一、青洲は其号なり、天保十一年二月十三日武蔵国樺沢郡血洗島に生る。血洗島は関東平野を流る、利根川流域の一小村にして、いま大里郡八基村《オホサト》《ヤツモト》に属す。○下略  
○『渋沢栄一伝稿本』大正八年ヨリ同十二年ニカケテ竜門社ニ於テ編纂セルモノニシテ、大正十二年九月ノ震災ニ資料ノ大部分ヲ焼失セルタメニ中止ナル。上梓セラレタルハ第六章マデナリ。

# 目次詳細

「目次詳細 (網文)」の各【ページ】をクリックすると、デジタル版『渋沢栄一伝記資料』の本文ページが表示されます。

## 目次

### 第2編 実業界指導並二社会公共事業尽力時代 明治六年 - 四十二年 (一)

#### 第1部 実業・経済

#### 第1章 金融

#### 第1節 銀行

#### 第1款 第一国立銀行 株式会社第一銀行 【p.5-】

## 目次詳細 (網文)

### 第2編 実業界指導並二社会公共事業尽力時代 明治六年 - 四十二年 (一)

#### 第1部 実業・経済

#### 第1章 金融

#### 第1節 銀行

#### 第1款 第一国立銀行 株式会社第一銀行

番号	和暦 (西暦)	網文	【ページ】
----	---------	----	-------

	明治6年6月11日 (1873年)	栄一創立総会出席シ、銀行営業方法、三井・小野両組ヨリ役員兼任ノ件、総監役ヲ設クル事ノ三案ヲ提議シ、且ツ自ら草案セル申合規則及ヒ同増補ヲ一読シテ衆ニ詢リ株主ノ賛同ヲ受ク。席上取締役ニ推薦セラレシモ尚官職ニアルヲ以テ辭シ、翌十日総監役就任ニ関スル契約ヲ締結ス。【p.5-34】	
--	-------------------	--	--

	明治6年6月 (1873年)	是月同行、大蔵省ト資金取扱ノ約定ヲ締結シ、爾來其事務ヲ取扱フ。尋イテ内務省・駅運賃等ノ資金出納事務ニモ任シ明治九年六月ニ至ル。【p.34-41】	
--	----------------	--	--

	明治6年8月1日 (1873年)	是ヨリ先、七月同行、資本ヲ式百四拾四万八千八百元ニ定メ、利益金配当定則、諸役員月給旅費支給定則其他ノ諸規則ヲ制定ス。七月二十日仮開業免状ヲ下附セラレ即日開業ス。三十一日、本免状ヲ下附セラレ是日株主会議開カレ、栄一議長トナリテ創立総会以來開業以前ニ取扱ヘル諸般ノ事務其他ヲ報告シ、株主ノ承認ヲ受ク。引続キ開業式行ハレ紙幣頭等川懸正祝詞ヲ述べ、栄一亦株主總代トシテ祝詞ヲ朗読ス。【p.41-52】	
--	------------------	--	--

	明治6年8月2日 (1873年)	同行、是日ヨリ巻円・貳円・五円・拾円・貳拾円ノ五種ノ銀行紙幣ヲ発行ス。栄一総監役トシテ之ニ与ル。【p.52-55】	
--	------------------	---	--

	明治6年10月12日 (1873年)	是日、同行、紙幣頭等能良介二、発行紙幣準備金並二預金準備ノ中三分ノ一ヲ金・銀・地金・其他古金銀・洋銀等ニ交換積立テシテコトヲ請ヒ、更ニ十一月十七日重ネテ明治七年一月二十八日申請スル所アリ、太政官之ヲ許可セズ。【p.55-57】	
--	--------------------	---	--

	明治6年 (1873年)	同行、七月二十日営業開始以來一般業務ニ於テモ諸般ノ改善ヲ計リ、営業ノ発展ヲ期ス。六年下半季拾万有余元ノ純益ヲアグ。【p.57-62】	
--	--------------	--	--

# 事業一覧

## 1.銀行

## 2.銀行団体 >

会社名・団体名・事項名 セルごとにパーマリンクを設定しています	網文年月日	掲載巻リンク	変遷図リンク
第一国立銀行・第一銀行	1873(明6)年 6月11日～	第04巻 <a href="#">【p.5-711】</a>	銀行: 第一・勧業・興銀 銀行: 三井 A
	1909(明42)年 6月14日～	第50巻 <a href="#">【p.5-263】</a>	
三井銀行	1876(明9)年 6月9日～	第05巻 <a href="#">【p.264-266】</a>	銀行: 三井 A 銀行: 第一・勧業・興銀
第二十三国立銀行	1876(明9)年 12月～	第05巻 <a href="#">【p.266-269】</a>	銀行: 九州
第五十九国立銀行	1877(明10)年 5月2日～	第05巻 <a href="#">【p.269-283】</a>	銀行: 東北 A
第二十国立銀行 (二十銀行)	1877(明10)年 7月11日～	第05巻 <a href="#">【p.284-285】</a>	銀行: 第一・勧業・興銀
	1912(明45)年 6月20日～	第50巻 <a href="#">【p.363-366】</a>	
第十九国立銀行	1877(明10)年 10月10日～	第05巻 <a href="#">【p.285-290】</a>	銀行: 中部東海
第三十二国立銀行	1878(明11)年 1月[?]～	第05巻 <a href="#">【p.290-293】</a>	銀行: 三井 A
第十六国立銀行	1878(明11)年 10月16日～	第05巻 <a href="#">【p.313-317】</a>	銀行: 中部東海
第七十七国立銀行 (七十七銀行)	1878(明11)年 10月～	第05巻 <a href="#">【p.294-313】</a>	銀行: 東北 B
第六十九国立銀行 (六十九銀行)	1878(明11)年 12月20日～	第05巻 <a href="#">【p.317-325】</a>	銀行: 北陸 A
	1917(大6)年 10月7日～	第50巻 <a href="#">【p.366-372】</a>	
	1905(明38)年 7月1日～	第56巻 <a href="#">【p.689-695】</a>	





## 2. デジタル版「実験論語処世談」

<https://eiichi.shibusawa.or.jp/features/jikkenrongo/>

『渋沢栄一伝記資料』別巻第6より

### 「実験論語処世談」（談話筆記）

- 大正4（1915）年から大正13（1924）年まで  
経済雑誌『実業之世界』に連載  
（同時期に『竜門雑誌』に転載）
- 『伝記資料』別巻に「論語については代表的」なものとして『竜門雑誌』より収載
- 「論語」の解釈だけでなく、自らの体験や、  
実業における価値観や倫理感についても述べている

一八八 竜門雑誌

第三二五号  
大正四年六月

○実験論語処世談（一）

青 淵 先 生

本篇は青淵先生が雑誌「実業之世界」の懇囑に由り講話せられたるものにて、同社に於ては毎号続載する筈なりと云ふ。（編者識）  
△論語に親むに至れる因縁

何故私が孔夫子の論語に親み、之を服膺して今日の如く日常生活の規矩準繩と做すまでに相成つたかは、或は世間の方々の不思議に思はるゝ処であらう。それに就ては、先づ幼年時代に私が受けた教育の順序から申述べねばならぬ。

維新前に於ける教育は、何地とも主として漢籍に依つたものであるが、江戸表などでは初めに「蒙求」とか乃至は又名家文を教へたりしたやうにも聞き及ぶ。然し、私の郷里（今の埼玉県）では先づ初めに

## 2. デジタル版「実験論語処世談」

<https://eiichi.shibusawa.or.jp/features/jikkenrongo/>

『伝記資料』別巻収載69編に8編を加え 網羅性を確保

### デジタル版「実験論語処世談」(1) / 渋沢栄一

『渋沢栄一伝記資料』別巻第6(渋沢青淵記念財団電門社, 1968.11) p.638-645

論語に親むに至れる因縁 / 何故論語を巡める耶 / 論語を実践躬行す / 維新前の商工業者 / 孔子教は宗教なりや / 論語に九ヶ所の「天」 / 其志や察するに余りあり / 渋沢にも孔子の志あり / 円満なる孔夫子 / 世間に知られざるを憂へず

本篇は青淵先生が雑誌「実業之世界」の懇囑に由  
同社に於ては毎号続載する筈なりと云ふ。(編者)

#### 1. 論語に親むに至れる因縁

何故私が孔夫子の論語に親み、之を服膺して今日の  
すまでに相成つたかは、或は世間の方々の不思議に思  
ては、先づ幼年時代に私が受けた教育の順序から申す  
維新前に於ける教育は、何地とも主として漢籍に依  
どでは初めに「蒙求」とか乃至は又名家文を教へたり  
し、私の郷里(今の埼玉県)では先づ初めに「千字文  
ましめ、それが済むた処で四書五經に移り、名家文は  
たもので、「文章軌範」とか「唐宋八大家文」の如き  
略」「史記列伝」の如きものをも此間に於て学び、「  
ばそれで一通りの教育を受けた事にせられたものであ

### デジタル版「実験論語処世談」[33a] (補遺) / 渋沢栄一

実験論語処世談 第六十二(六十一)回 孔子の政治的手腕  
『実業之世界』第15巻第1号(実業之世界社, 1918.01.01) p.104-106

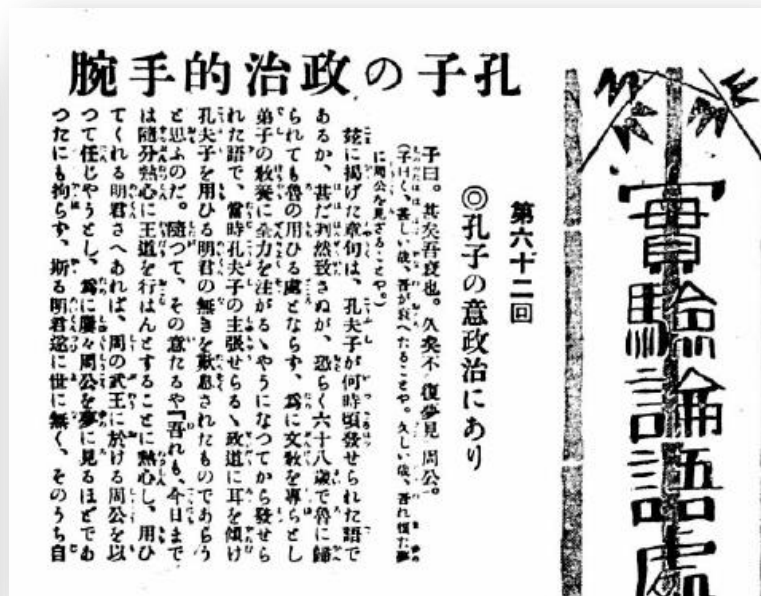
孔子の意政治にあり / 孔子の政治的手腕 / 私は作詩の夢を見た / 完全なる人物は何か

#### 1. 孔子の意政治にあり

子曰。甚矣吾衰也。久矣不復夢見周公。【述而第七】  
(子曰く、甚しい哉、吾が衰へたることや。久しい哉、吾れ復た夢に  
周公を見ざることや。)

茲に掲げた章句は、孔夫子が何時頃発せられた語であるか、甚だ判然  
致さぬが、恐らく六十八歳で魯に帰られても魯の用ひる処とならず、為  
に文教を専らとし弟子の教養に全力を注がる、やうになつてから発せら  
れた語で、当時孔夫子の主張せらるゝ政道に耳を傾け孔夫子を用ひる明  
君の無きを嘆息されたものであらうと思ふのだ。随つて、その意たるや  
『吾れも、今日までは随分熱心に王道を行はんとすることに熱心し、用  
ひてくれる明君さへあれば、周の武王に於ける周公を以つて任じやうと  
し、為に屢々周公を夢に見るほどであつたにも拘らず、斯る明君遂に世

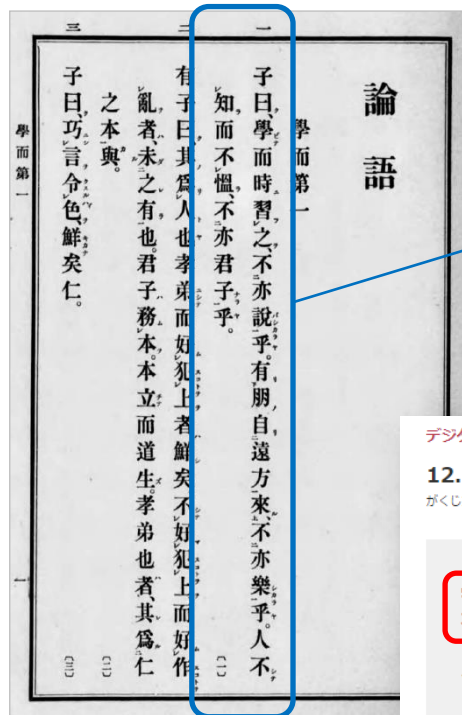
### 『実業之世界』(初出誌)から補充



# 『論語：斯文会訓点』(竜門社, 1928)をテキスト化、章句の引用箇所を索引化

## 『論語：斯文会訓点』 (竜門社, 1928)

## デジタル版「実験論語処世談」論語章句一覧



章番号	章句	「実験論語」小見出し
01-01	子曰、学而時習之、不亦説乎。有朋自遠方來、不亦樂乎。人不知而不愠、不亦君子乎。	(1)-12. 「学而」第一の冒頭 (1)-13. 世間に知られざるを憂へず
01-02	有子曰、其為人也孝弟、而好犯上者鮮矣。不好犯上、而好作乱者、未之有也。君子務本。本立而道生。孝弟也者、其為仁之本与。	(2)-11. 孝弟と三徳との功徳 (9)-4. 孔子の答弁は王手を狙ふ
01-03	子曰、巧言令色、鮮矣仁。	

デジタル版「実験論語処世談」(1) / 渋沢栄一

12. 「学而」第一の冒頭 (1)-12

がくじたいいのほうどう

**学而時習之。不亦説乎。有朋自遠方來。不亦樂乎。人不知而不愠。不亦君子乎。【学而第一】**

(学んで時に之を習ふ、亦悦ばしからずや。友あり遠方より來る、亦樂しからずや。人知らずして怒らず、亦君子ならずや。)

この章句は論語の冒頭になつてるのであるが、筑前の学者亀井道載先生の著はされた「語由」等に拠つても明かなる如く、処世上頗

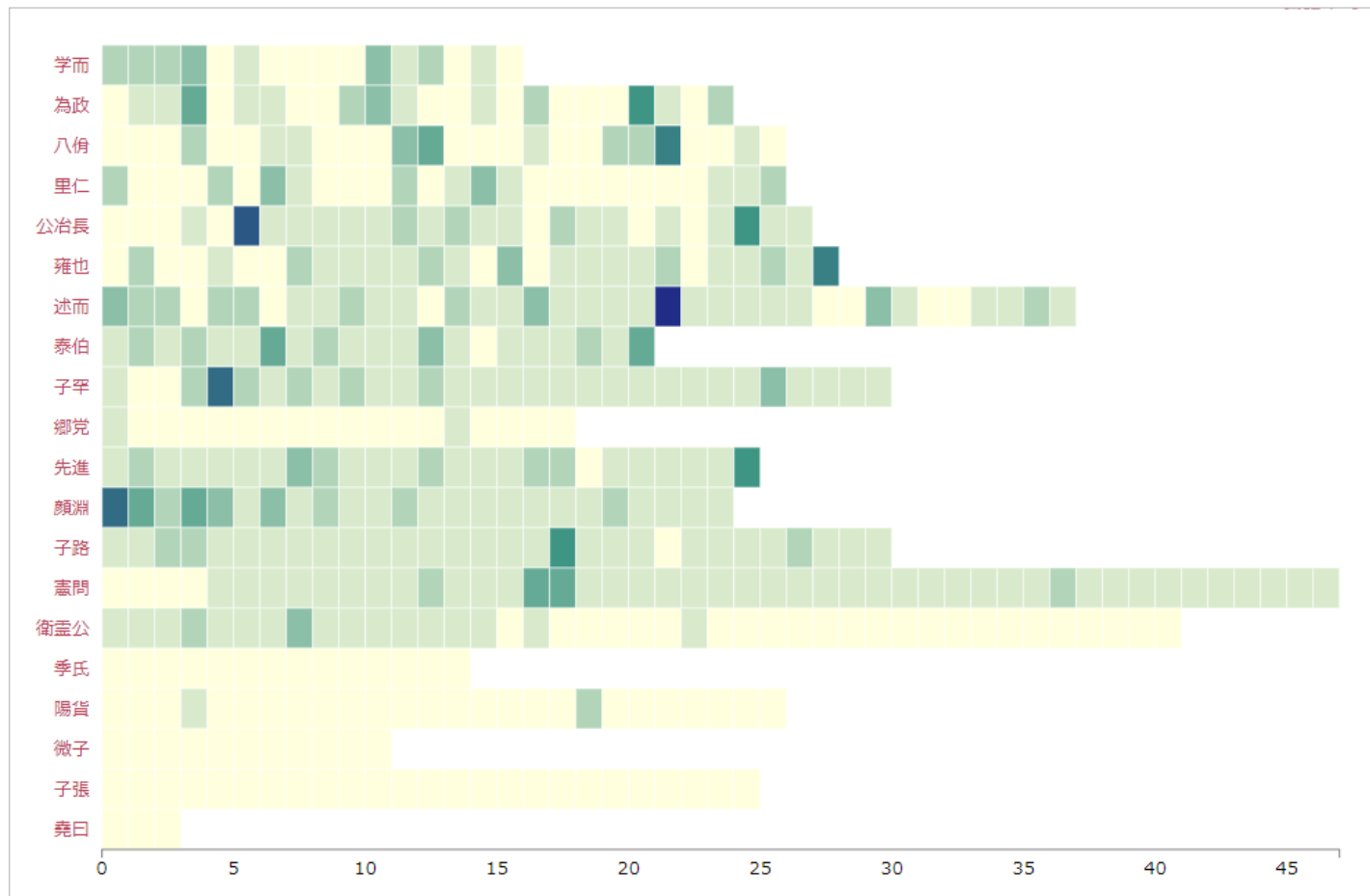
デジタル版「実験論語処世談」(1) / 渋沢栄一

13. 世間に知られざるを憂へず (1)-13

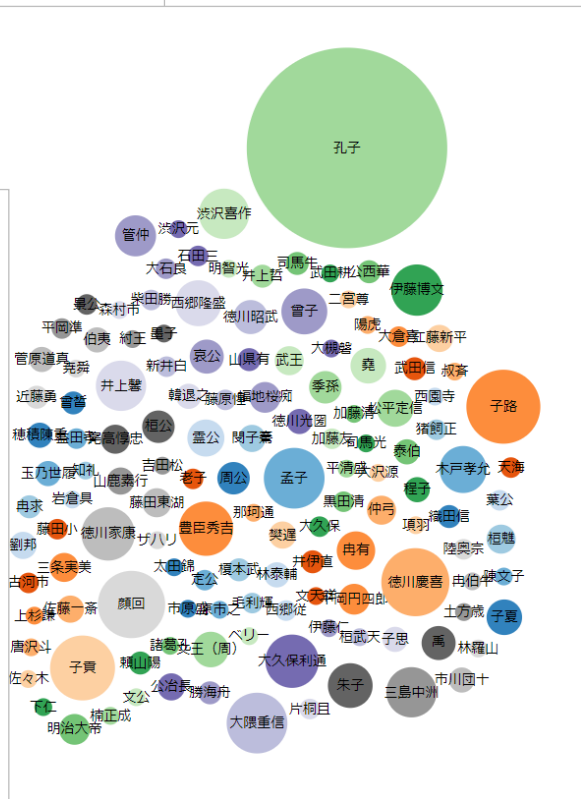
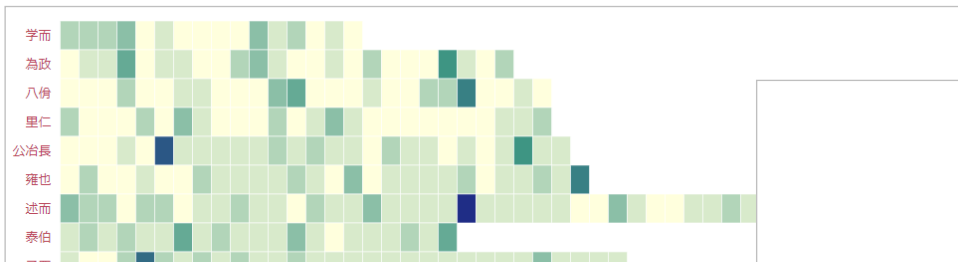
せけんにしられざるをうれす

既に自ら習ひ修めた道を二三の友人になりとも伝えて共に語つて楽しむを得るやうになつた上は、更に此の上之を衆に伝へ、それが天下に行はれるやうになつたならば、一層悦ばしく又愉快であるに相違ないが、さて、之を衆に伝へ天下に行はうとすれば世間が其教を容れて呉れず、人は容易に其道の何たるかを解して呉れぬ。然し、世間が解して呉れず人が知つて呉れぬからとて、苟も君子たるの修行をするもの之に腹を立てて怒るやつは事のあるべき筈のものではないといふのが「人知らずして愠らず、亦君子ならずや」の意味である。


# 「実験論語処世談」における論語章句の出現頻度を「ヒートマップ」を使用して可視化



# 情報の可視化







# 渋沢社史データベース

Shibusawa Shashi Database

渋沢社史データベースとは  
About the Shibusawa Shashi Database

渋沢社史データベースの使い方  
How to Use the Shibusawa Shashi Database

社史(出版物)を実際に見るには  
Where to Find Shashi

### はじめに

渋沢社史データベースは、渋沢栄一が関係した会社を中心に、その歴史をまとめた出版物である「社史」の内容を、目次・索引・年表・資料編といったデータから検索することができるサイトです。社史を通して、近代日本における経済社会の発展を担った人々や企業の業績、経済発展が社会の変化や日常生活に与えた影響を、具体的な出来事に即して知ることが出来ます。データベースをさまざまな視点から紐解いて、経済活動や研究調査にご活用ください。

※2018年3月23日現在、1,576冊の社史が収録されています。うち年表の掲載がある社史は1,156冊、索引の掲載がある社史は311冊です。

### お知らせ

**TOPICS** 2018年3月23日  
ユーザーガイドをPDFでダウンロードできます。  
User Guide is available to download in PDF format.  
日本語 [1.7MB] / English [2.2MB]

2018年3月23日  
・「渋沢社史データベース」に資料編78件、年表3冊が追加収録されました。

### 社史を検索

**ワード検索** 書誌情報・目次・索引・年表・資料編を総合的に検索し、社史を探すことができます。

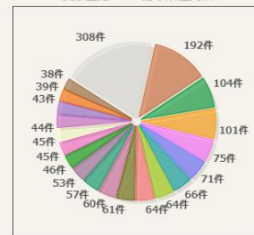
フリーワード   表示件数 ▼ 20件

**収録社史一覧**

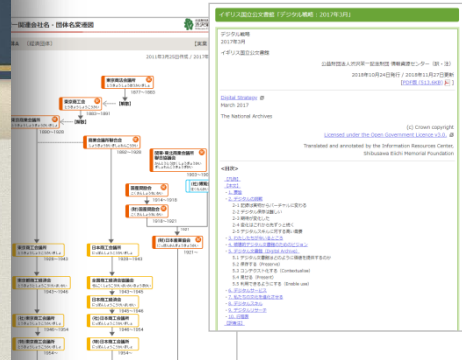
### 業種別社史一覧

- | 水産 | 鉱業 | 建設 | 食品 | 繊維 | パルプ・紙 |
- | 化学工業 | 医薬品 | 石油 | ゴム | 窯業 | 鉄鋼業 |
- | 非鉄金属・金属製品 | 機械 | 電気機器 | 造船 |
- | 自動車・自動車部品 | その他輸送機器 | 精密機器 |
- | その他製造業 | 商社 | 小売業 | 銀行 | 証券 | 保険 |
- | その他金融業 | 不動産 | 鉄道・バス | 陸運 | 海運 |
- | 空運 | 倉庫・運輸関連 | 通信 | 電力 | ガス |
- | サービス業 | 経済団体 |

収録社史1576冊の業種内訳



※マウスオーバーで業種名が確認できます。



### 3. 渋沢社史データベース (略称：SSD)

<https://shashi.shibusawa.or.jp>

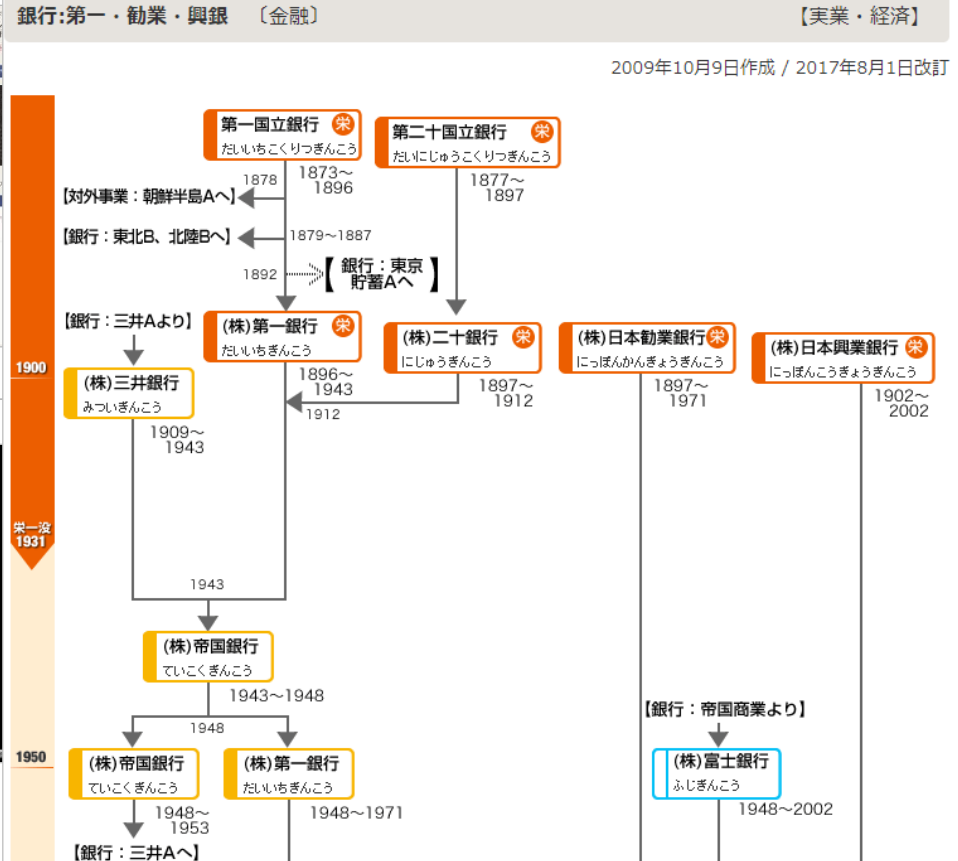
The screenshot shows the homepage of the Shibusawa Shashi Database. At the top, there is a navigation bar with the SSD logo and the text '渋沢社史データベース' and 'Shibusawa Shashi Database'. Below this, there are three tabs: '渋沢社史データベースとは', '渋沢社史データベースの使い方', and '社史(出版物)を実際に見るには'. The main content area is divided into several sections: 'はじめに' (Introduction), 'お知らせ' (Notice), '社史を検索' (Search for Shashi), and '会社名で検索' (Search by Company Name). The 'はじめに' section contains introductory text about the database. The 'お知らせ' section has a notice dated 2018年12月23日 regarding a PDF user guide. The '社史を検索' section features a search bar with a 'フリーワード' input field, a '検索' button, and a '表示件数' dropdown set to '20件'. Below the search bar is a '業種別社史一覧' (List of Shashi by Industry) with a pie chart titled '収録社史1576冊の業種内訳' (Breakdown of 1576 Shashi by Industry). The pie chart shows the following data: 308件 (Food), 192件 (Textiles), 104件 (Chemical Industry), 101件 (Other), 75件 (Finance), 71件 (Retail), 64件 (Transportation), 64件 (Energy), 57件 (Agriculture), 50件 (Automotive), 49件 (Other), 46件 (Other), 46件 (Other), 43件 (Other), 39件 (Other), 38件 (Other). The '会社名で検索' section has a search bar with a '会社名' input field, a '検索' button, and a '表示件数' dropdown set to '20件'. Below the search bar are buttons for 'あ行', 'か行', 'さ行', 'た行', 'な行', 'は行', 'ま行', 'や行', 'ら行', 'わ行'.

明治以降、日本で出版された全社史約15,000冊から、渋沢栄一に関連する会社の社史を中心に1,576冊分のデータを収録したデータベース

- 社史の目次、索引、年表、資料編をデータ化
- 総データ数：約243万件（2018.12現在）

目次：ほぼ総ての社史にある  
索引：採録社史（1,576冊）の約20%  
年表：同 約75%  
資料編：同 約80%

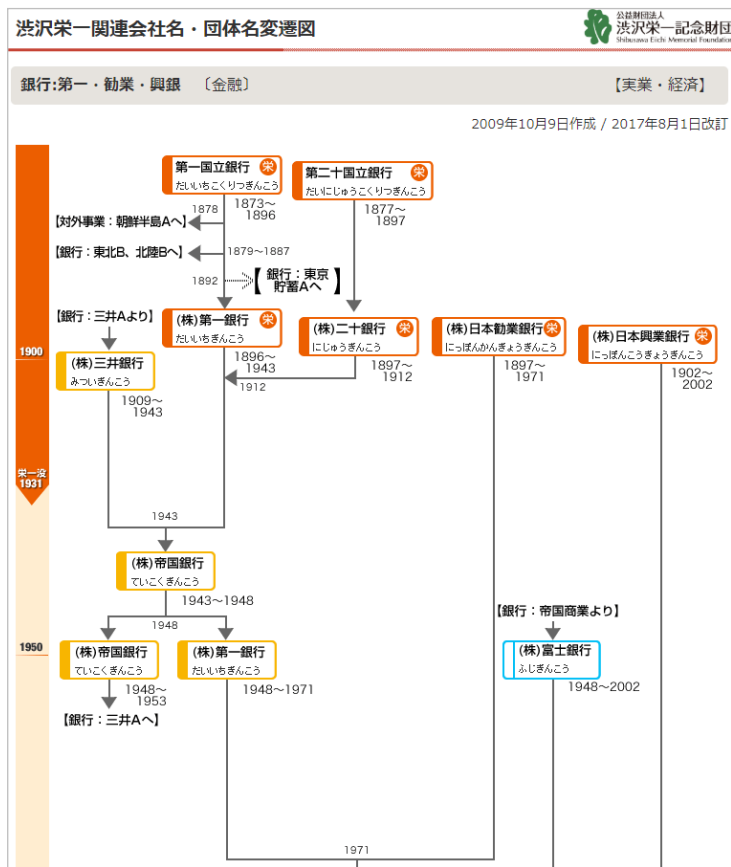
\* 索引のある社史を優先的に採録





# 4. 渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図

<https://www.shibusawa.or.jp/eiichi/companyname/>



渋沢栄一が関わった会社・団体の「名称」変遷を事業別の系統図にまとめたもの。

- ・ 渋沢社史データベースの収録範囲（渋沢栄一関連会社）確定のため調査、作成
- ・ その後、社会公共事業（団体）に拡大
- ・ 範囲：会社名：2010年頃まで、団体名：2017年頃まで
- ・ 変遷図の数：145図
- ・ 名称のデータ数 : 1,839
- ・ 直接関わった会社・団体 : 647
- ・ 後身会社・団体 : 404
- ・ その他 : 788

> 変遷図・典拠資料の見方へ > 変遷図へ

銀行:第一・勸業・興銀 (金融)

【実業・経済】

2009年10月9日作成 / 2017年8月1日改訂

■ 社名一覧 : クリックすると各社の典拠資料へ飛びます。 **栄** は栄一関連会社、 **後** は栄一関連後身会社を表わします。

[第一国立銀行](#) / [第二十国立銀行](#) / [\(株\)第一銀行\(1896~1943\)](#) / [\(株\)二十銀行](#) / [\(株\)日本勸業銀行](#) / [\(株\)日本興業銀行](#) / [\(株\)三井銀行](#) / [\(株\)帝国銀行\(1943~1948\)](#) / [\(株\)帝国銀行\(1948~1953\)](#) / [\(株\)第一銀行\(1948~1971\)](#) / [\(株\)富士銀行](#) / [\(株\)第一勸業銀行](#) / [\(株\)みずほ統合準備銀行](#) / [\(株\)みずほ銀行\(2002~2013\)](#) / [\(株\)みずほコーポレート銀行](#) / [\(株\)みずほ銀行\(2013~\)](#)

- 1.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.

<b>栄</b> 第一国立銀行	<b>2.</b> 名称使用年: 1873~1896	<b>3.</b> 渋沢栄一の関わり: 総監役、頭取
有価証券報告書、法人移行文書等	株式会社みずほ銀行第6期有価証券報告書 (平成19年4月1日~平成20年3月31日) 第一部 企業情報 第1 企業の概況 2 沿革	
社史・団体史等書名(出版者、出版年)	第一銀行史(第一銀行、1957)	
『渋沢栄一伝記資料』掲載箇所	<a href="#">第4巻</a>	
『主要企業の系譜図』図番号	20.1-4	
ウェブサイト	全国銀行協会TOP>銀行図書館>銀行変遷史データベース>第一国立銀行 <a href="http://www.opac1.com/bank/detail.php?bcd=2833">http://www.opac1.com/bank/detail.php?bcd=2833</a> @ (2015/8/25 確認) みずほフィナンシャルグループTOPホーム>〔みずほ〕について>会社概要>沿革 <a href="http://www.mizuho-fg.co.jp/company/info/profile.html">http://www.mizuho-fg.co.jp/company/info/profile.html</a> @ (2011/08/17確認)	
補記	: 1873年東京に設立、開業。1878年韓国に釜山支店開業。1879年石巻支店、仙台支店開設。1880年秋田支店開設、この年以降韓国内に支店・出張所を多く開設。1887年金沢支店開設。1892年渋沢栄一役員7名の出資で東京貯蓄銀行を設立、石巻支店を第七十七国立銀行に、金沢支店を加州銀行に譲渡。1896年仙台支店を第七十七国立銀行に譲渡、同年秋田支店を県内有力者に譲渡し秋田銀行設立。	

## 典拠データ (9項目)

1. 会社・団体名
  2. 名称使用年
  3. 渋沢栄一の関わり
  4. 有価証券報告書、法人移行文書等
  5. 社史・団体史等書名
  6. 『渋沢栄一伝記資料』掲載箇所
  7. 『主要企業の系譜図』図番号
  8. ウェブサイト
  9. 補記
- \* 現在データベース化を進めている

# 『渋沢栄一伝記資料』 デジタル化プロジェクト

# 社史プロジェクト



## 「実業史錦絵絵引」

## 「渋沢敬三アーカイブ」

## 5. 実業史錦絵絵引

<https://ebiki.jp>

「絵引（えびき）」とは？

絵から字を引く（本文）



- 10 生垣  
11 垣をくぐる木  
12 長柄傘をもつ男  
13 長柄傘  
14 鹿皮  
15 烏帽子  
16 上衣  
17 四幅袴  
18 草鞋

字から絵を引く（巻末索引）

2 衣服	
烏帽子	7, 9, 12, 18, 20, 24, 28, 29, 31, 33, 39, 40, 41, 58, 101, 107, 178, 183, 186
立烏帽子	11, 17, 19, 55, 78, 91, 100, 115, 139, 169, 176, 177, 186, 195, 221, 223, 233, 246
侍烏帽子	15, 21, 58, 59, 63, 91, 99, 100, 102, 106, 108, 113, 129, 130, 131, 134, 136, 138, 139, 140,

# 絵引ギャラリー (絵から字を引く)

実業史錦絵絵引 衣喰住之内家職幼絵解之図

# 絵引データベース (字から絵を引く)

実業史錦絵絵引 データベース カテゴリ索引

トップページ 実業史錦絵・絵引について 実業史錦絵絵引ギャラリー 絵引データベース

カテゴリー索引

人物(じんぶつ)

画中の主要な人物について、役割や解説を見ることができます。

他のカテゴリ  
・モノ・道具  
・よそおい

図像・事物一覧

【設計図の作製】  
(せつけいずのさくせい)

解説/画中のテキスト

作品解説  
住宅を作る場合の心がまえをまず最初に示し、続いて設計図を作る様子を描く。  
「十分一」(十分の一)の「割付絵図」を引き、仕様書を作るとしているが、要するに必ずしも十分の一とは限らない。この絵を描いた人が設計図を作る場面を見たとはいえない。筆を使ってフリーハンドで線を引くはずはない。すでに江戸時代から墨指(すみさし)を使い、物指(ものさし)を使って直線を引く手法は確立しているからである。

画中のテキスト(釈文)

第一  
凡(およそ)世(よ)の中(なか)に衣喰住(いしよくぢう)の三ツノ(みつ)ノ身(み)をたもつ道具(どうぐ)にて、真一(まいつ)の(そのひ)とツノ(つ)ノ住(ぢう)乃(なり)字(じ)八人々の住居(すまひ)する家(いへ)のノ(の)事(こと)なり、先(まづ)其家(そのいへ)を作(つく)らんとおもふノ(に)、能(よく)普請(ふしん)になれたる人と住居(すまひ)ノ(勝手(かづつ)の)よきよふに相談(そうだん)をして、何屋敷(なんじやうじき)何屋敷(なんじやうじき)といふ(ま)どりを極(きり)め、ノ(其上(そのうへ) 大工(だいこう)を呼(よ)んで普請(ふしん)の絵図(えづ)にノ(仕様(しやう)といふ)符(こしらへ)やうの書附(かきつけ)をさせせる(づ)

画中のテキスト(現代語訳)

第一  
この世の中で衣・食・住の三つは身を保つ道具であって、その一つの住という字は人々の住居する家のことである。その家を作るとする場合は、住みやすい家にするように番屋(家作り)に慣れた人とよく相談し、何屋敷(家作り)という部屋の取取りを決め、その上で大工を呼んで設計図(平面図)と仕様書とを作らせる。これは、その様子を示す図である。

# 渋沢敬三アーカイブ

一生涯、著作、資料一

渋沢敬三記念事業 公式サイト



## お知らせ

### TOPICS

- 2015.05.22 渋沢雅英著『父・渋沢敬三』や『倉場氏魚譜(クラバー四巻) 長崎へ帰る : 渋沢敬三の長崎魚への思い』を掲載しました
- 2016.04.18 【サイト更新】 関係人物データベース「渋沢敬三交友録」のメンテナンスを行います。
- 2016.03.31 【サイト更新】 関係人物データベース「渋沢敬三交友録」を公開しました。
- 2015.05.22 【サイト更新】 「渋沢敬三アーカイブ」にコンテンツを追加しました

## 渋沢敬三について

経済人としてだけでなく、文化・学問の理解者であり支援者でもあった渋沢敬三を、「経済人として」「文化人として」「歴史の立役者として」という3つのカテゴリでご紹介します。



▶ 渋沢敬三についてを見る

## 著作

渋沢敬三の近世者による版クラバーから読むこと

▶ 渋沢敬三

## 渋沢

日本の近代経済界での活躍を大きく貢献した

▶ 渋沢敬三

## 渋沢

実業や文化活動を通じて、絵画的なことを目的

▶ 渋沢敬三

## 渋沢社史データベース

Nishizawa Shoji Database  
渋沢社史データベースの紹介  
Data of the Shibusawa Database



『魚名の意味から見た分類』

魚名は、その魚の性質や特徴を表現するために、古くから使われてきた。その中には、魚の生態や生活環境、あるいは人間の生活や文化と関連したものが多く見られる。本書では、魚の生態や生活環境、あるいは人間の生活や文化と関連した魚名を、その意味や由来から分類し、その背景や文化を解説する。

魚名は、その魚の性質や特徴を表現するために、古くから使われてきた。その中には、魚の生態や生活環境、あるいは人間の生活や文化と関連したものが多く見られる。本書では、魚の生態や生活環境、あるいは人間の生活や文化と関連した魚名を、その意味や由来から分類し、その背景や文化を解説する。

魚名は、その魚の性質や特徴を表現するために、古くから使われてきた。その中には、魚の生態や生活環境、あるいは人間の生活や文化と関連したものが多く見られる。本書では、魚の生態や生活環境、あるいは人間の生活や文化と関連した魚名を、その意味や由来から分類し、その背景や文化を解説する。



# 6. 渋沢敬三アーカイブ

<https://shibusawakeizo.jp>

The screenshot shows the homepage of the Shibusawa Keisaku Archive. The header features the title '渋沢敬三アーカイブ' and the subtitle '一生、著作、資料' along with the text '渋沢敬三記念事業 公式サイト'. Below the header is a large image of two men, likely Shibusawa Keisaku and another prominent figure. The main content area is divided into several sections: '渋沢敬三について' (About Shibusawa Keisaku), '著作・記事を読む' (Read Works and Articles), '渋沢敬三年譜' (Shibusawa Keisaku Yearbook), and '渋沢敬三記念事業' (Shibusawa Keisaku Memorial Activities). Each section includes a brief description and a '見る' (View) button. A 'お知らせ' (Notice) section on the left lists recent updates with dates and titles. At the bottom, there are navigation links for 'お知らせ一覧' and 'このサイトについて', and a copyright notice for the Shibusawa Keisaku Memorial Activities Committee.

渋沢敬三（1896～1963）没後50年（2013年）を前に、渋沢敬三に関する情報を集約・発信する目的で開設

- 渋沢敬三記念事業の公式サイト
- イベント（展覧会、シンポジウム）の記録
- 渋沢敬三の人物情報、著作、伝記、記事を公開

# デジタル版『渋沢敬三著作集』（「eReading」を利用）

## 全文検索機能

**動物園**  
動物園(どうぶつえん、zoo (zoological park / zoological garden) menagerie)とは、生きた動物を飼育・研究し、一般に公開する施設であり、法令に基づいて管理される。

**美術館**  
美術館(びじゅつかん)とは、美術作品を中心とした文化遺産や現代の文化的遺産を収集・保存・展示し、またそれらの芸術に関する

倫敦の動物園を見るの記

倫敦の動物園を見るの記  
であって、かつ如何にも下  
鉄籠に入れて、出てこない  
見ているのは、あんまりう  
内に入れたつもりでいるが  
見ているつもりでおられて  
なる。金太郎と一緒に遊ん  
たしかに人は動物園内に  
タイタシで見られまい。  
動物を見た後の如く喜ぶと  
しかしこんな気持ちを持て  
方も「自然」という見地か  
にした動物園を作ることに

倫敦の動物園を見るの記

水

検索 クリア

目次

祭魚洞雑録

- アチックの成長 8
- 南島見聞録 145
- 津軽の旅 31
- 井の頭学校生徒手記二、三 8
- 祖父の後ろ姿 22
- 伊太利旅行記 19
- 倫敦の動物園を見るの記 18
- 本邦工業史に関する一考察
- 祭魚洞雑考第一部 日本水産史研究
- 塩：『塩俗問答集』を中心として 135
- 式内水産物需給試考 193
- 『延喜式』内水産神饌に関する考察若干 127
- 『延喜式』内技術史的資料若干例について 29
- 式内魚名 17
- 『豆州内浦漁民史料』序 14
- 東西作りミズ歌表 27
- テグス小史 26
- 片野温氏著『長良川鵜飼』序文 11
- 鯛釣用鳥賊油煎の起源と伝播 3
- 所感：昭和十六年十一月二日社会経済史学会第十一次大会にて 33
- 編註
- 解説
- 渋沢敬三、人と仕事戦前を中心に 山口和雄 45
- 被差別部落・「原始民族」への言及について 網野善彦 6

## 自動索引生成機能

渋沢敬三著作集 第1巻

索引

- 項目(頻度順)
- 項目(五十音順)
- 人物(頻度順)

目次

- 目次

祭魚洞雑録

- アチックの成長
- 南島見聞録
- 津軽の旅
- 井の頭学校生徒手記二、三
- 祖父の後ろ姿
- 伊太利旅行記
- 倫敦の動物園を見るの記
- 本邦工業史に関する一考察

祭魚洞雑考第一部 日本水産史研究

- 塩：『塩俗問答集』を中心として
- 式内水産物需給試考
- 『延喜式』内水産神饌に関する考察若干
- 『延喜式』内技術史的資料若干例について
- 式内魚名
- 『豆州内浦漁民史料』序

我が国 (172件)

- 南島見聞... 23
- 伊太利旅... 3
- 本邦工業... 53
- 塩... 19
- 式内水産... 26
- 『延喜式』... 19
- 『延喜式』... 2
- 東西作り... 4
- テグス小... 6
- 片野温氏... 6
- 所感... 3
- 渋沢敬三... 1
- 被差別部... 2

同屋 (162件)

- 本邦工業... 157
- 塩... 3
- テグス小... 2

日本 (160件)


目次 1

- 南島見聞... 45
- 井の頭学... 6
- 伊太利旅... 23
- 倫敦の動... 7
- 本邦工業... 6
- 塩... 4
- 式内水産... 7
- 『延喜式』... 6
- 『豆州内』... 1
- テグス小... 3
- 所感... 18
- 編註... 5
- 渋沢敬三... 20
- 被差別部... 6

神饌 (134件)

目次 1

- 式内水産... 6
- 『延喜式』... 117
- 『延喜式』... 3
- 所感... 3
- 渋沢敬三... 4



延喜式 (131件)


目次 2

- 塩... 7
- 式内水産... 47
- 『延喜式』内水産神饌に関する考察若干 22
- 『延喜式』内技術史的資料若干例について 7
- 式内魚名 14
- 所感... 18
- 渋沢敬三... 14

台湾 (100件)

アチック... 1

- 南島見聞... 60
- 本邦工業... 1
- 式内水産... 1
- 『延喜式』... 1
- テグス小... 1
- 所感... 1
- 編註... 3
- 渋沢敬三... 2
- 被差別部... 4





# 自動脚注表示機能

長崎大学附属図書館  
「WEB版グラバー図譜」との連携  
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/gloveratlas/>



## Glover Atlas

日本西部及び南部魚類図譜 [グラバー図譜]  
Fishes of Southern and Western Japan

no.329 2巻 - 13集 - 図説6  
【現在の和名】キダイ  
【倉場氏が付けた和名】きだい  
【復刻版の和名】キダイ

門: 脊椎動物	綱: 硬骨魚	目: スズキ
科: タイ	属: Dentex	種小名: tumifrons
亜種小名:	体長(cm): 26	型/色: タイ型/赤



【画家】萩原魚仙

キダイはマダイと共にタイ型魚類の代表的な魚であり、九州西海では特にポピュラーである。マダイ、チダイ、ヒレコダイは全般的に甚だ赤味を帯びているが、本種は黄味が強い。東シナ海での本種の産卵期3~6月。底曳網・底延縄で漁獲される。美味。長崎では普通はレンコレンコダイと呼ぶ。最近では資源の過漁がひどい。

**キダイ**



キダイはマダイと共にタイ型魚類の代表的な魚であり、九州西海では特にポピュラーである。マダイ、チダイ、ヒレコダイは全般的に甚だ赤味を帯びているが、本種は黄味が強い。東シナ海での本種の産卵期3~6月。底曳網・底延縄で漁獲される。美味。長崎では普通はレンコレンコダイと呼ぶ。最近では資源の過漁がひどい。

日本魚名の研究

見出さることなくとも多くはその通用の歴史的過程はきわめて悠久なものと見なされ得るもので、大胆な言い方をすれば原始日本語へ直接的に結びつくものといえよう。

二 二次的魚名

上記のごとき一次的魚名を根幹として、各種の形容詞を、多くの場合前置して、魚族の種類を更に細かく類別したと見なさるべき魚名を数多く見る。前記例のほか、タイがマダイ、チダイ、キダイ、ヘダイ等、ハゼがニクハゼ、カワハゼ、ユルハゼ、ダボハゼ、マハゼ等、アジがムロアジ、マルアジ、マアジ、オハナアジ、シマアジ、イトヒキアジ、クボアジ等、例示は枚挙にいとまがないが、かくのごとく一次的魚名を土台として分化した魚名は多い。これらを二次的魚名と名づけておく。一次的魚名と二次的魚名との関係については更に多少の考究を要するがこれは後述することとして、ここでは単にこれら二種の形式的分類を記すにとどめておく。

第二 魚名の意味から見た分類

魚名の示す意味を考えてみると、前に述べた言語形式上で一次的魚名として分類した魚名は目下のところまだちにその意味を解しかねるが、それ以外の魚名の多くはその前置せる形容詞によって命名の動機を窺うに足るものが多い。しかしてこれらの魚名は大別して二つに分け得る。一つは魚類自体を観察して命名されたことを示すものであり、他の一つは魚類自体の直接観察から離れて、かえって他の社会的事象に対しての連想または譬喩を基として命名されたと思われるものである。以下それぞれ多少の例示をなしつつ記述してみたい。

日本では北海道南部から九州まで分布し、朝鮮、中国大島にも産する。また、最南リフォルニア州へも移植されていることが報告され、リアアからも採集が報告され、内湾の川口域に生息する対象魚として広く

本種は日本各地の近海、朝鮮に南にシマバ類と並んで最もいる大衆魚の一つで頭も大きく重要な水産物が、近年大型魚が少なくなるとの動向が注目される。美の料理に適する。

体色は赤色で腹部は淡色。頭部はやや紫褐色を帯びている。縁辺が黒色であるの側イ類と区別がつく。体側には黒い点状に散在して、遊泳美しい。他のタイ類より

# ご静聴ありがとうございました

## 「渡米実業団」日録 - 情報資源センター・ブログ別館 (AS) (RSS)

今から約100年前の1909（明治42）年、東京・大阪など6大都市の商業会議所を中心とした民間人51名が3ヶ月間にわたりアメリカ合衆国の主要都市を訪れ、民間の立場から、日本とアメリカの経済発展を齎すパイプづくりに大きく貢献しました。

この日録では「渡米実業団」（Honorary Commercial Commissioners of Japan to the United States of America）と呼ばれた日本初の大型ビジネスミッションの日々の出来事を、『渡米実業団一伝記資料』に再録された資料等と違いながら、過去に遡る形で掲載しています。

【プロフィール】



<前の5日分

1928年02月07日(火) 編集

■【今日の栄一】(隔日後) 1928 (昭和3年7歳) 渡米栄一、ウィリアム・グリフス宛る 【『渡米実業団一伝記資料』第40巻掲載】

是日栄一、アメリカ合衆国ウィリアム・イ、坂谷芳郎と連名にて、奥夫人に帯電を発

出典：『渡米実業団一伝記資料』3編 社会公共事業十二年 - 昭和六年 / 1部 社会公共事業 / 3章 国産布 【第40巻 p.584-586】

・『渡米実業団一伝記資料』第40巻目次詳細  
http://www.shibusawa.or.jp/SH/denk

渡米栄一 - 坂谷芳郎電報  
ウィリアム・イ  
昭和三年二月七日

（別録）  
二月  
紐育州プラスカ市  
グリフス夫人宛  
日本の親友の逝去を深く悼み、深甚の同情を

○右英文電報(昭和三年二月七日付ニテ)

ウィリアム・エリオット・グリフス (William

渡米栄一詳細年譜	
明治42年 (1909) (69歳)	
社会の主なできごと	10月 学術論文掲載される
参 照	1月7日 三女愛子婚約 / 1月9日 大隅 真主婚へ / 2月1日 天童遊下り脚車団体編成 / 5月14日 療養 小澤北屋、船形へ / 6月6日 関係会社・団体等の兼任経歴を日 渡米実業団で中国へ (12月17日横浜帰国)
この詳細年譜は、『渡米実業団一伝記資料』原文を年月日順に記列したものです。 (≪凡例≫)	▼ 1月   2月   3月   4月   5月   6月   7月   8月   9月
1909年 (明治42)	事 項
1月6日	【50. 国庫災害救助/イタリア震災救助義捐金集募】 是日栄一、外務大臣官邸に開かれたるイタリア震災救助義捐金集募のた
1月7日	【東急生活/西鉄・横浜/西鉄】 是日、栄一三女愛子、明日婚約と婚約的方式进行。
1月9日	【旅行】 是日栄一、東京を乗り大隅の長生館に赴き、二十五日帰京す。
1月11日	【16. 船橋/大日本製糖株式会社】 当会社は製糖株式会社合同以半経営状態に陥り、其内容に關し種々の風説を流布せしめた結果、通説の誤解明となり、社風漸次和明以下各員皆此たる責を引き謝罪せしが終る。
1月12日	【74. 祝賀会・歓迎会・送別会・送別会/本野村農大連送別会】 是日栄一、横浜ホテルに於て開催されたるロシア駐留特命大使大連本野村
1月15日	【10. 銀行団/東京銀行聯合会・東京銀行連合会】 是日銀行連合会第十七一回員總會兼井上準之助送別会本町同業倶楽部に關する。栄一出席して送別の辭をなす。
1月15日	【74. 祝賀会・歓迎会・送別会・送別会/井上準之助送別会/送別会】 是日栄一、銀行連合会主催の井上準之助送別会に臨み、送別の辭を述べ。
1月31日	【31. 船業/京成船務株式会社】 京成船務株式会社社長取締役田部吉市、豊を第一に愛し、当会社の基礎固めに関く渡米第一の偉業を遂げざるを以て、其勤勞を益々以て芳しくせんことを願ふ。栄一之に答ふ。

各地に拠る年々の記録 - 地域と栄栄一への関わりを記述して

### 渡米栄一 ゆかりの地

ゆかりの地検索  検索

このコンテンツについて

- ゆかりの地 (索引/地図)
- ゆかりの写真 (リスト)
- 旅の足跡 (年代順)

地図上の適切な都道府県をクリックすると、詳細ページに移動します。

北海道 | 北海道  
東北 | 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県  
関東 | 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県  
北陸甲信越 | 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県  
東海 | 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県  
近畿 | 徳島県 香川県 岡山県 広島県 山口県  
中国 | 高知県 徳島県 岡山県 広島県 山口県  
四国 | 徳島県 香川県 岡山県 広島県 高知県  
九州 | 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県  
沖縄 | 沖縄県

『渡米実業団一伝記資料』 会社名・団体名等一覧 - 第58巻「事業別年譜」より -

会社名・団体名等一覧検索

『渡米実業団一伝記資料』とは > 事業一覧

最終更新日: 2014. 3.25 / 公開日: 2011.11.11

2.銀行団体 >	額文年月日	掲載者リンク	関連リンク
	1873(明治6)年6月11日	第04巻 [p.5-711]	銀行：第一・勧業・興業 銀行：三井A
	1909(明治42)年6月14日	第50巻 [p.5-263]	
	1876(明治9)年6月9日		
	1876(明治9)年12月		
	1877(明治10)年5月2日		
	1877(明治10)年7月11日		
	1912(明治45)年6月20日		
	1877(明治10)年10月10日		
	1878(明治11)年1月[?]		
	1878(明治11)年10月16日		
	1878(明治11)年10月		
	1878(明治11)年		

### 世界/日本のビジネス・アーカイブズ

< 前の号へ > < 次の号へ >

イギリス国立公文書館「デジタル戦略：2017年3月」

デジタル戦略  
2017年3月

イギリス国立公文書館

公益財団法人渡米実業団一伝記資料 情報資源センター (訳・注)  
2018年10月24日発行 / 2018年11月27日更新  
[PDF版 \(512.6KB\)](#)

Digital Strategy   
March 2017

The National Archives

(c) Crown copyright  
Licensed under the Open Government Licence v3.0.   
Translated and annotated by the Information Resources Center, Shibusawa Eiichi Memorial Foundation

<目次>

- 【目次】
- 【本文】
- 1. 要旨
- 2. デジタルの現状
- 2-1 記録は実物からバーチャルに変わる
- 2-2 デジタル保存は難しい
- 2-3 期待が変化した
- 2-4 変化はこれから先ずつと続く
- 2-5 デジタルスキルに対する高い関心
- 3. わたしたちが何をすべきか
- 4. 記録がデジタル文書館のためのビジョン
- 5. デジタル文書館 (Digital Archives)
- 5.1 デジタル文書館はどのように記録を提供するか
- 5.2 保存する (Preserve)
- 5.3 コンテクト化する (Contentualise)
- 5.4 見せる (Present)
- 5.5 利用できるようにする (Enable use)
- 6. デジタルの未来
- 7. 私たちの文化を後世に伝える
- 8. デジタルスキル
- 9. デジタルリテラシー
- 10. 用語表

【訳者注】